

建築学専攻

I. 志望区分

志望区分	研究内容	担当教員	優先合格者数	志望区分定員
構 造 系				
I-1	建築構造力学 構造解析学 構造安定論 建築設計力学 大空間構造 建築構造最適化	大崎 純 張 景耀	1	5
I-2	鉄筋コンクリート構造学 プレストレスト・コンクリート構造学 構造材料学 複合構造学 耐震設計学 耐火設計	西山 峰広 谷 昌典	1	5
I-3	鉄骨構造学 合成構造学 高性能材料工学 空間構造計画学 溶接・接合工学	聲高 裕治	1	3
I-4	建築・都市保全再生 地震工学 災害リスクマネジメント 構造デザイン論 伝統木造	林 康裕 杉野 未奈	1	5
I-5	制振構造 建築動力学 耐震設計法 建築地盤工学 構造最適設計・逆問題 耐震補強 システム同定	竹脇 出 藤田 皓平	1	5
I-6	材料・構法創生学 破壊力学の応用 構造接合法と環境共生 セメント系材料と高性能合金 損傷制御とスマート構造	金子 佳生	1	4
I-7	地震環境工学 地盤震動論 地震ハザード解析 地震荷重論 地盤-建物系非線形応答解析	松島 信一	1	2
I-8	耐風構造工学 風環境工学 耐風設計デザイン論 大気環境災害論 工学的意思決定論	丸山 敬 西嶋 一欽	1	3
I-9	鋼構造耐震学 構造振動制御論 極限解析学 建築防災工学 構造ヘルスマニタリング	池田 芳樹 倉田 真宏	1	3
計 画 系				
II-1a	建築計画・設計 環境行動・心理 医療福祉環境デザイン	三浦 研	1	3
II-1b	高齢期の地域継続居住 ダイバーシティ・デザイン	吉田 哲		2
II-2	建築史 都市史 建築技術史 建築文化財保存	富島 義幸	1	4
II-3	建築設計学 建築設計 建築形態論 建築プログラム学 ソーシャルデザイン 比較居住文化	平田 晃久	1	4
II-4	建築論 生活空間設計学 建築空間論 居住形態論 景観デザイン論	田路 貴浩	1	3
II-5	建築生産 建築プロジェクトマネジメント 生産設計 建築経済 建築システム設計 建築システム最適化	金多 隆	1	4
II-6a	居住空間学 都市・地域計画 環境再生・共生	神吉紀世子	1	3
II-6b	住居・住環境計画 居住空間の再編・再生	柳沢 究		2
II-7	人間環境設計論 環境デザイン 地域建築学 自然災害と人間居住	小林 広英	1	2
II-8	災害と都市・建築 防災・復興計画論 災害建築・都市のデザイン 危機管理論	牧 紀男	1	2
環 境 系				
III-1	温熱環境制御 建築と設備の省エネルギー 文化財保存	小椋 大輔 伊庭千恵美	1	5
III-2	視環境工学 建築照明・色彩	石田泰一郎	1	2
III-3	都市と建築空間の環境調整 建築火災安全工学 自然光を利用した環境調整	原田 和典	1	4
III-4	音環境 騒音・振動制御 建築音響 環境心理 音とコミュニケーション	高野 靖 大谷 真	1	5
III-5	地震火災予測 津波火災予測 都市複合災害リスク評価 広域避難計画	西野 智研	1	2

II. 志望区分の申告について

- (a) 「I. 志望区分」を参考に志望区分を申告する。「I. 志望区分」には志望区分、研究内容、担当教員、優先合格者数、志望区分定員が記載してある。
- (b) インターネット出願システムの志望情報入力画面で、第1から第10までの順位の志望区分を申告する。合格を希望する志望区分数が10に満たない場合には、希望する順位まで申告すればよい。
- (c) 入学後の志望区分の変更は認めない。

III. 募集人員

建築学専攻 75名

IV. 入学試験日程

月日(曜)			試験室
8月6日 (火)	13:00～15:30 計画系科目	16:00～17:30 環境系科目	総合研究9号館 (吉田キャンパス)
	建築計画、都市および地域計画、 建築史、建築論、建築生産、建築 設計論、建築意匠	建築環境工学、建築設備システム、 建築光・音環境学、建築温熱環境設 計、都市環境工学、建築安全設計、 建築設備計画法	
8月7日 (水)	9:00～11:30 構造系科目	13:00～17:00 設計製図	総合研究9号館 (吉田キャンパス)
	建築構造力学、鉄筋コンクリート 構造、鉄骨構造、耐震構造、構造 材料、基礎工学	小規模建築の設計：半切程度のケン ト紙に一般図の製図を行う。	

試験開始後30分以上遅刻した者の入室は認めない。また、試験中の途中退室は認めない。

V. 入学試験詳細

(1) 配点

科目	配点
英語	100
設計製図	100
計画系、構造系、環境系科目	600
合計	800

(2) 英語

TOEFL試験の成績を100点満点に換算する。

2017年8月1日以降に実施されたTOEFLスコアを有効とする。ただし、TOEFL-iBT(Internet-Based Test)あるいはTOEFL-PBT(Paper-Based Test)のみ受け付ける。TOEFL-ITPなどの団体特別受験制度による成績は無効とする。

本人宛に郵送された「Examinee Score Report」の原本(コピーや受験生自身でダウンロードしたものは不可)を提出すること。

「Examinee Score Report」は、ETS(米国 Educational Testing Service)から本人宛に郵送され

る。TOEFL テストの受験を申し込む際に、紙媒体の「Examinee Score Report」を受け取るように、スコア通知設定画面で申請すること。

「Examinee Score Report」の原本を専門科目の開始前に監督者の指示によって提出すること。
提出しなかった場合は、英語の得点を 0 点とする。

受験資格により TOEFL を受験することが困難な場合は、事前に C クラスター事務区教務掛(建築系)まで連絡すること。

「Examinee Score Report」に加えて、「Official Score Report」(ETS から京都大学工学研究科建築学専攻宛に直送される)も提出すること。次のいずれかの方法で手続きを行い、建築学専攻に届くようにすること(期限: 8 月 2 日(金))。

- ・ TOEFL 試験申込時又は試験前日の 22 時までに ETS に申請する方法(無料)
 - ・ TOEFL 試験日以降に ETS に申請する方法(有料)
- 建築学専攻の Institution Code は次の通り: B472

TOEFL 試験の詳細についての問い合わせ先は、以下の通り。

- ◆ TOEFL: 国際教育交換協議会(CIEE)・TOEFL 事業部
Tel: 03-5467-5489、<http://www.cieej.or.jp/toefl/index.html>

(3) 受験で使用を許可する物品

- (a) 筆記用具は、黒鉛筆、シャープペンシル、ナイフ、芯削り、鉛筆削り、消しゴムとする。
- (b) 製図用具は、黒鉛筆またはシャープペンシル・消しゴム・ナイフ・鉛筆削り・芯削り・コンパス・分度器または角度定規・T 定規(長さ 75cm~105cm のもの)・三角定規・物差しまたは三角スケール・字消し板・テープ(製図用紙貼付用)・製図用刷毛とする。
- (c) 製図用具の貸し出しは、原則として行わない。

(4) 合格者決定法

- (a) 総得点(800 点満点)が 400 点以上の者を有資格者とする。
- (b) 志望区分ごとに優先合格者を決定する。志望区分ごとの優先合格者数は、「I. 志望区分」に記載してある。選考にあたっては、各志望区分を第 1 順位で志望する有資格者の中で総得点が最も高く、かつ、総得点が有資格者の中で上位 75 番までの者を優先合格者とする。
- (c) 優先合格者に選考されなかった有資格者の中から、総得点の高い順に合格者を決定する。この際、志望区分ごとの選考を行なう。有資格者が申告した志望区分の合格者数が志望区分定員に達した場合には、下位の志望順位の志望区分が選考の対象となる。
- (d) 総得点で同得点者があるときは、計画系、構造系、環境系科目の合計点が高い方を優先させる。計画系、構造系、環境系科目の合計も同点のときは、第 1 志望の志望区分に対応した科目の得点の高い方を優先させる。

VI. 入学後の教育プログラムの選択

入学後には下記の 2 種類の教育プログラムが準備されている。いずれのプログラムを履修するかは、合格者の志望と入試成績に応じて審査の後に決定される。入試区分「建築学専攻」の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは下記の通りである。詳細については、募集要項 17 頁の表を参照すること。また、教育プログラムの内容についても、募集要項の『X 教育プログラムの内容(融合工学コース)』を参照すること。

- 前後期連携教育プログラム(融合工学コース)
 - ・デザイン学分野

○修士課程教育プログラム

・建築学専攻

Ⅶ. その他

(1) 研究説明会

各研究室の研究内容について、学外向けの説明会（対象：京都大学以外の学生・社会人）を開催する予定である。日時場所等の詳細は建築学専攻ホームページに掲載する。

<建築学専攻ホームページ内の入学試験のページ>

<https://www.ar.t.kyoto-u.ac.jp/ja/admission/exam>

(2) その他

(a) 試験室には必ず受験票を携帯し、係員の指示に従うこと。携帯電話等の電子機器類は、なるべく試験室に持ち込まないこと。持ち込む場合には、電源を切り、かばんにしまって所定の場所に置くこと。身につけている場合、不正行為と見なされることがあるので注意すること。

(b) 入学試験は吉田キャンパスで行われるので注意すること。

(c) 訂正や追加指示などが工学研究科または建築学専攻のホームページに掲載される場合があるので、適宜チェックすること。

<工学研究科ホームページ内の入学試験のページ>

<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/admissions/graduate/exam1>

<建築学専攻ホームページ内の入学試験のページ>

<https://www.ar.t.kyoto-u.ac.jp/ja/admission/exam>

問合せ先・連絡先

〒615-8540 京都市西京区京都大学桂

京都大学大学院工学研究科 C クラスター事務区教務掛（建築系）

電話 075-383-2967

E-mail: kenchiku@adm.t.kyoto-u.ac.jp

参照 <http://www.ar.t.kyoto-u.ac.jp/>